

《概要版》平成30年秋田県観光統計について

令和元年8月
観光戦略課

1 観光地点等入込客数（延べ人数）の状況

○観光地点等入込客数は3,448万人で前年比3.6%の増加

前年比較で約120万人の増加（平成29年：約3,328万人）となった。

- ・道の駅ふたついのリニューアル（+51万人）や男鹿市複合観光施設オガーレのオープン（+39万人）が、増加の大きな要因である。
- ・また、種苗交換会が秋田市で開催されたことも要因の一つ（+47万人）。

※観光地点数は、H29：404地点、H30：405地点と、1地点増加している。

2 延べ宿泊者数の状況

○延べ宿泊者数は351万人で前年比4.8%の増加

前年比較で約16万人の増加（平成29年：約335万人）となった。

- ・県内客（+2千人）に比べ、県外客が大きく増加（+19万人）している。
- ・増加の割合は、東北6県中3位（1位：青森県、2位：福島県）であった。

3 【外国人】延べ宿泊者数の状況

○外国人延べ宿泊者数は12万3千人で前年比17.9%の増加

前年比較で約1万9千人の増加（平成29年：約10万5千人）となった。

- ・国籍別で見ると、台湾が最も大きく増加（+8千人）しており、次いで中国（+3千人）となっている。
- ・増加の割合は、東北6県中6位であった。

※外国人宿泊者数の国籍別内訳については、従業員10人以上の施設にかかる数値を用いている。従業員10人未満の施設を含む全施設における外国人宿泊者数については、国籍別の内訳が公表されていない。

4 観光消費額の状況

○観光消費額は約1,120億円で前年比2.7%の増加

前年比較で約29億円の増加（平成29年：約1,091億円）となった。

- ・観光消費額単価（パラメータ調査および観光庁からの提供データから算出される）が前年に比べて増加したことから、観光消費額も増加している。
- ・宿泊客にかかる観光消費額については、入込客数・消費単価ともに増加したことから大きく伸びた（+66億円）。一方で、日帰り客については入込客数の減少により観光消費額が減少（-37億円）となった。このことから、延べ宿泊者数に比べて観光消費額の増加割合は低い水準である。

5 満足度の状況

○全ての項目で、「満足」「やや満足」と答えた人の割合が約8割を占める。

調査項目は「全体」、「宿泊」、「接客」、「情報提供」及び「アクセス」の5項目

※回答選択肢は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4つである。

- ・いずれの調査項目も例年と同様の傾向を示しており、「情報提供」と「アクセス」について不満またはやや不満と回答された割合が高かった。現在の調査票では、具体的にどのような点に不満を抱いたかまでは分からぬいため、今後（令和2年パラメータ調査）に向けた課題である。

（参考1）調査方法等の変更

平成23年から調査方法を観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づいて変更したため、平成22年以前のデータとは単純比較できない。

（参考2）観光消費額の推計

観光消費額の推計は既存の複数の統計調査を活用して補正、推計しているため、「観光地点等入込客数（延べ人数）の状況」や「延べ宿泊者数の状況」と「観光消費額の状況」の増減の割合は必ずしも一致しない。

（参考3）観光地点パラメータ調査の調査地点変更

平成28年調査から、県内11カ所のパラメータ調査地点を5地点変更した。